

3号埋立地における電気伝導率の変動について

平成23年11月18日

埼玉県環境整備センター

10月6日にお知らせした、埋立地の遮水シート下側から集水される水の電気伝導率に変動が見られたことについて調査を行ったところ、原因が判明しましたのでお知らせします。

1 地下水の現状

基準を超える有害物質は検出されず、外部への影響も認められませんでした。現在の電気伝導率は、通常の状態に戻っています。

2 原因調査の結果

- (1) 9月以降、浸出水排水管が満水の状態にもかかわらず、遮水シート下側の水の電気伝導率は通常値に戻っていました。
- (2) カメラによる浸出水集水管の調査では、施設の不具合は認められませんでした。
- (3) 過去のボーリング調査から、埋立開始前から埋立地の上流に電気伝導率の高い地下水が存在していることが認められました。
- (4) 場内で使用する肥料や融雪剤に関して、電気伝導率の上昇の一因になり得る程度の量が埋立地周辺に使われていました。
- (5) 埋立地に隣接する高台の表土で電気伝導率の高い箇所が確認されました。

3 まとめ

電気伝導率の変動は、施設の不具合によるものではなく、大雨による地下水水位の上昇又は水道（みずみち）の変化に伴って地中から流れ出した物質によるものと判断されます。

4 今後の対応

- (1) 肥料や融雪剤の使用に当たっては、必要最小限とします。
- (2) 供用開始から長い年月を経過していますので、これを契機に施設、設備の点検を行い、必要な補強を行います。
- (3) 電気伝導率が通常の状態に戻りましたので、遮水シート下側の水を河川へ放流しました。